

2024年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月8日 文学部 哲学科

問題Ⅱ

問1

ア	無縁	イ	縛	ウ	眺
---	----	---	---	---	---

問2

私たちは日常で実行する振る舞いを無数の選択肢から自由に選択でき、自由に振る舞っている面はたしかにあるが、しかし各選択肢は実際には同等ではなく、強い方向性や傾向を帯びた選択肢へと私たちは向かわせられがちなのだが、そのことは通常言語化や意識化をされないままになっているということ。(138字)

問3

フーコーの言う権力とは、社会における百年単位での長期的な方向性を指し、短期的・個人的な水準では自由な選択と思われる行為が実は長期的な傾向に沿わされた出来事にすぎないことを分析するのに役立つ概念であり、歴史的過去や今の社会が抑圧してきた別の方向性を発見させてくれる道具であること。(139字)

問4

批判とは平凡な一個人には手の届かない巨大な議論ではなく、日頃から接している身の回りの機器や人間関係との関わりを意識化するという誰にでもあてはまる実践だから。(78字)

問5

平易な具体例の導入を予告して読者を安心させつつ、その具体例が前後の理論的な議論や概念と別次元ではなく、密接に関連していることを読者に予期させておく役割。(76字)

2024年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月8日 文学部 哲学科

問題Ⅲ

出題意図や採点方針 ※テーマの記号[a]~[c]共通

【出題意図や採点方針】哲学的問題に関する関心、ならびに分析力と論証力を問う出題。普段から哲学的問題に関心を持ち、思考する習慣を有する者であれば、一度は考えたことがあるであろう問題を選んだ。今回は、哲学の《真善美》の枠組みに即して、3つの選択肢を用意した。[a]は、生成AIが哲学をどのように変化させる可能性があるのかを問う問題である。生成AIを、単なる哲学の道具としてテクニカルに捉えるのではなく、哲学という知の営み、真理をめぐる知の形式そのものの変更可能性にまで踏み込んで論じることが求められる。[b]は、正義の戦争の有無を問う問題である。正義の規定は、既存の規定に従っても、自身で定めたものでも構わない。どのような見解であれ、正義の概念を明確に規定した上で、自身の見解を論理的かつ説得的に組み立てることが求められる。正義の相対性、その複雑な力学関係を踏まえた多角的な論点に即した論述が期待される。[c]も、生成AIと芸術の関係を問う問題である。この問いは、芸術作品の制作をめぐる問いであると同時に、解釈や受容をめぐる問いでもある。この問いを通じて、近代芸術の基礎的な前提である、作者／作品／鑑賞者という図式が浮き彫りにされ、こうした図式を超える芸術の可能性が提示されるならば、なおよい。いずれの選択肢に関しても、単に問題を分析するのみならず、問題となる事象がよって立つ「条件」を問い直す哲学的観点が求められる。